

2012 年度 LIFE 活動ハイライト

- 南インドのタミルナドゥ州ニラコタイ地区4か村で有機農法研修、視察研修旅行、カンファレンスが開催され化学肥料から有機肥料への転換、土壌改良をめざした活動がおこなわれ延べ**農民 500 名**が参加しました。
- 南インドのタミルナドゥ州ニラコタイ地区6か村で植林を行いました。建材用樹種5種類、果樹5種類、**10 樹種 26,248 本**の苗木を6カ村の住民の協力によって植栽しました。また、9月には日本人が参加して植林ワークキャンプを実施しました。
- 南インドのタミルナドゥ州ディンディグル県カンビリアンパティ村で現地 NGO の協力のもと、ミシンの縫製技術訓練プログラムがおこなわれ6か月コースを2期開講し、**SHG メンバー 30 名の女性**が受講しました。また、工業用ミシンも5台導入し服飾工場からの注文が受けられるようになりました。
- 南インドのタミルナドゥ州ディンディグル県にあるガンディグラム大学農村部教育学科と協力して**15 か村で障がいをもつ 120 名**の人たちを対象にして医療ケア、公的な支援、雇用創出となる体制づくり、そのための情報提供、協力して生活改善をめざすSHGの活動が9月より開始しました。
- 南インドのタミルナドゥ州ニラコタイ地区に住む女性が**10 の SHG**を組織し高等教育ローン運営の活動を開始しました。7月には工業系の大学に進学を希望する **SHG メンバーの子弟 2 名**がローン受給者となりました。その後、ローン支給制度のルールも定められました。
- フェアトレードチームが取り扱うオーガニック紅茶、チョコレートがインターネットで購入できるネットショップがオープンしました。また、4月のアースデー、10月のグローバルフェスタ、12月のお歳暮贈答用に販売しました。**2012 年度は 244,950 円**の売り上げとなりました。
- 毎年行われている物品回収キャンペーンで**使用済み切手が 170kg**、**書損じハガキが 4,200 枚**寄付されました。

2012 年度事業報告

2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

2012 年度は、地球の友と歩む会のビジョン、ミッションを見直し、新たな事業展開のための方針づくりをおこない今後の方向性を確認していく年であった。

海外事業においては、インド・タミルナドゥ州ディンディグル県にある農村開発をすすめている NGO・CIRHEP (シロップ、Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection) と協議をすすめ 2013 年度から開始される流水域開発、環境保全事業の検討、事業対象地での住民との対話をおこない計画策定をすすめた。同時に有機農業基盤整備のための緑化や有機農法研修をすすめていった。また、同県にある REYDS という NGO と 2010 年から開始されたミシン縫製技術研修も工業用ミシンを導入して女性の技能向上がすすみ服飾製品化に向けて活動が継続しておこなわれた。

海外交流関係ではインドでスタディツアー、農村開発研修、そして 2 回目の植林ワークキャンプを他の団体と共催で実施していった。また、最近の海外でのソーシャルビジネスや BOP (Base of the Pyramid) ビジネスが注目されているなかで現場での取り組みを視察していくツアーをインドの団体・機関のネットワーク、協力を得て夏と春に実施し多くの参加者があった。

国内においては、企業の社会貢献活動をすすめる企業からの協力もあって使用済み切手、プリペイドカード、書き損じはがきの収集活動で大きな成果をあげることができた。特に、9 年前から開始した使用済み切手の収集活動・仕分け活動には、自宅での切手整理活動を行う在宅ボランティアをはじめ、多くのボランティアが参加した。フェアトレードチームではオーガニック紅茶、クッキー、チョコレートを様々なイベントで販売し大きな成果をあげることができた。

また、2012 年度もインターンの参画によって多くの活動を推進していくことができた。恒例の千代田区ボランティア・センター共催の「夏休み中高生のための体験ボランティア」の企画・運営、各種イベントへの出展、物品収集活動、広報、海外事業補佐、フェアトレード研究・推進、ファンドレイジングツール作成など多岐にわたるものであった。また、海外スタディツアーへのサブリーダー参加や、インドにある企業へのインターンシップ派遣など多くの活躍する機会が得られた。今年は若者の社会経験を促進するための実務経験を NPO,NGO でおこなう制度にも協力し、4 日間で 4 名の研修生を受け入れていった。

組織面では資金調達や組織マネジメントでの研修の機会づくり理事、運営委員、事務局員が参加して能力強化を図っていった。

A. 海外事業

1. 現地協力団体

インド

- ・在インド日本関係機関・団体：在インド日本国大使館、在チェンナイ日本国総領事館、JICA インド事務所、他
- ・インド NGO：RIDO(Rural Integrated Development Organization)、MYRADA (Mysore Resettlement and Development Agency)、Gandhigram Trust、CIRHEP(Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection)、REYDS(Rural Education Youth Development Service Trust)、CECOWOR(Centre for Coordination of Voluntary Works and Research)、ECLOF(Ecumenical Church Loan Fund) India, Sulabh International, Drishtee Development & Communication Ltd., Equitas Micro Finance India P Ltd, Thomson Reuters, Aravind Eye Care System 他
- ・インド教育関係機関：Gandhigram University Rural Development Institute

2. 支援活動

インド・タミルナドゥ州ニラコタイ地区

事業名：有機農法研修による有機農業基盤整備支援

事業期間：2012年5月～2013年3月

現地協力団体：CIRHEP(Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection)

活動地：ニラコタイ地区4か村

◆活動の背景

近年の降雨量の不足により農業が困難となり、農業を放棄して都会に移住したり、出稼ぎに行く人口が増加してきている。また、無理に農業生産をあげるために化学肥料を使って農業をすすめてきている。このような状況を憂えて自然環境をとりもどしたり、保全に努めていくということで現地協力団体となっているNGOは有機農業の推進にとりくんできている。森林が減少し、治水能力がなくなり、地下水位が低下して飲料水の確保が困難となり、衛生状態も悪くなってきている。このような環境を改善し、持続可能な農業ができる基盤をつくっていくことが急務となっている。

貧困層となっている農家では化学肥料や農薬を購入するために借金をしていくケースが多く、期待通りの農業生産が上がらない場合は借金だけが残し、農業を放棄していく原因ともなっていく。期待通りの現金収入が得られない場合は医療機関にかかれなくなったり、子どもの教育費にもまわせなくなって、子どもも学校に通う機会を失う要因にもなっている。また化学肥料は土壌の劣化につながり将来的には農産物が収穫できない状況になっていくことを防ぐためにも農民向けの啓蒙活動と実践が必要となってくる。

◆活動と成果

今回の事業では有機農法の普及をめざしておこなわれたもので、7月と1月の2回おこなわれた有機肥料づくり研修、8月と1月には他の地域での成功例を学ぶ研修旅行も開催され4か村で120名の参加があり、化学肥料から有機農法に転換していった農民のメッセージは大きな刺激となった。11月には近隣40か村から300名の農民が集まり、有機農業の意義についての講演、肥料づくりの実演など専門家や農民実践者からの報告があり有機農業の普及のためのプログラムとなった。



写真上：有機肥料研修後、自宅で害虫駆除液をつくる女性



写真上：ミシン縫製技能研修で学ぶ女性グループメンバー

インド・タミルナドゥ州ディンディグル県カビリアンパティ村

事業名：女性グループ組織化と職業訓練事業<2010年度からの継続>

事業期間：2012年4月～2013年3月

現地協力団体：REYDS(Rural Education Youth Development Service Trust)

活動地：カンビリアンパティ村

◆活動の背景

農村部に在住する女性の置かれている生活環境は厳しく、農業に従事しても降雨量の不足によって農産物ができないため現金収入を得ることができない。そのため男性は出稼ぎをせざるをえなくなっていたり、政府の100日雇用という道路工事などに参加して賃金をえることができるが不安定なものとなっている。冠婚葬祭での出費、緊急時の医療費、子ども教育費など家計を圧迫している。そのため児童労働が日常化してきている。女性が村外に出かけて仕事を得るといった慣習がないところで現金収入となる方策をつくったり、女性同士が協力してやっていくため自助努力グループSHGが2010年に50組織されてミシンの技術研修が開始された。

◆活動と成果

今年度は2010年に導入された足踏み式ミシン15台を活用して6か月30名づつSHGメンバーから受講生を募って技能研修をおこない年間で60名が技術訓練を受けていった。また同時に電動の工業用ミシンを5台導入して足踏み式ミシンでも6か月の研修を受けた女性を対象にして服飾の製品化に向けて指導をおこなっていった。現地担当者も服飾工場と交渉して注文を受けるところまですんできたが現地では昼間に計画停電がおこなわれるために作業ができず計画は中断している。このような状況を解決するために新年度では停電時でも稼働させることができるジェネレーターの導入を計画している。

一方、足踏み式ミシンの技能訓練を受けた女性はSHGがおこなっているマイクロクレジット制度を用いてローンを受けてミシンを購入し、家で縫製の作業をしている月額3000ルピーの収入になっている。しかしミシンを購入して縫製作業ができる女性も5名程度にとどまっている。

インド・タミルナドゥ州ディンディグル県ニラコタイ地区

事業名：環境保全のための植林推進事業

事業期間：2012年7月～2013年2月

現地協力団体：CIRHEP(Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection)

活動地：ニラコタイ地区6か村

◆活動の背景

現地では近年の降雨量の不足によって農業が困難となったり、地下水位が低下して飲料水の確保が困難となり衛生状態も悪くなり病気の罹患率もあがってきています。また、土地は治水能力を失って農耕面積が減少しています。持続可能な農業をすすめていくためには植林による保水能力の確保が急務となっています。また併せて土壌を改良していくための有機農法の導入もおこなっていく必要がある。

◆活動の成果

雨季が始まる前には苗木の選定をおこない、雨季が始まる9月より164ヘクタールの農地に植林をおこなっていった。



樹種は建材用苗木5種類約16,000本、果樹5種類、約10,000本、合計26,000本を植林していった。配布した世帯は400世帯、そして有機肥料づくり研修や植栽後の維持管理をどのようにするか研修に参加をすることを条件にしておこなった。また、有機肥料研修で修得した技能を生かして肥料をつくり施肥していき、成長促進や害虫駆除液などの使用によって苗木の生育が促進されたなど大きな成果をあげることができた。

写真上：配布される苗木を取りに来た農民、自分の農地に植林して治水能力をたかめていく

インド・タミルナドゥ州ディンディグル県ガンディグラム

事業名：農村部の障がい者を対象にしたSHG支援事業

事業期間：2012年9月～2013年3月（継続中）

現地協力団体：Gandhigram Rural Institute（ガンディグラム大学農村部教育学科）

活動地：ガンディグラム地区15か村

◆活動の背景

インドでは障害をもつ人々の社会環境はきびしい。とくに偏見や差別によって政府からのサービスが受けられなかったり、雇用の機会もなく、貧困の一途をたどっている。農村部では移動も困難で情報を得る手段も閉ざされている。そのため家に閉じこもったりして外部との接触もできないでいたり、家族もケアをすることに疲れたり、家から離れられなく

収入を得る機会を逃していることなどが困窮化の原因ともなっている。このような環境を改善していくためには、差別や偏見をなくしていくための啓発活動や受けられるサービスや補償内容の情報提供が必要になってくる。

◆活動の成果

今年度は活動開始が9月からとなり十分な成果をあげるとこまでに至っていないが、対象となる120名の障害者のSHG組織を各村につくり、各自が抱えている問題を出しあい、どのような活動をしていきたいか要望収集からおこなっていった。3月までにおこなわれたSHG会議で挙げられていた要望、問題では収入が少なかったり、公共サービスの情報が届かないために十分な医療が受けられない、交流の場がないので孤立してしまい自殺まで考えた、など深刻な悩みまでが出されていた。今回の支援事業では大学での担当者が各村のSHGを定期的に巡回してカウンセリングをおこなっている。新年度からは車椅子の貸し出しをおこなったり、雇用につながっていくための基盤整備をしていくことが課題となっている。



写真上：
肢体不自由の人たちをサポートするガンディグラムにある義足センター

インド・タミルナドゥ州ディンディグル県ニラコタイ地区

事業名：高等教育ローン支援事業

現地協力団体：CIRHEP(Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection)

活動地：ニラコタイ地区10か村

◆活動の背景

現地で組織された女性によるSHGメンバーの子弟が農村部にあっても高等教育機関への進学を希望する人が増えてきている。インド国内での経済的レベルの向上もあったり、IT産業の活発化で、とくに理工系の大学が地方都市でも開講されて人材育成に力が注がれている。また、農村部でも子どもに高等教育を受けさせてより多くの収入を期待していること

の現れでもある。しかし、農村部での家計ではまとまった教育資金が準備できず、進学をあきらめざるを得ないこともある。このような状況に対応していくために既存の10の女性グループSHGが連盟を組織してローン制度を管理していく活動が始められた。SHGが銀行ローンを得るには提出書類に収入証明などが求められたり、申請書が受理されても審査に1年程度かかったりするという背景があつてすすめられていくことになった。

◆活動の成果

具体的には10のSHGメンバーの子弟2名が候補者として選ばれ、7月から始まる新学期に備えて面談をおこない、資金の提供をおこなっていった。2名にはそれぞれ50,000ルピーが渡され、工業大学への進学が可能となった。2名の選考にあたってはSHGでの協議、承認によってなされ、その後ローンの返済方法やこれから借り受ける人たちも含めてのルールづくりをおこなった。2名からの返済は毎月2,500ルピーが滞りなくおこなわれている。返済にあたっての利息も月額0.5%、年率6%と決定していった。また、今後ローンの希望者が増えてくるなかで返済などの管理運営の専任をおき、給与を支給して担当してもらう予定となっている。新年度になってあらたに7名の申込みがあり支給額の調整がおこなわれている。

3. 海外協力事業能力強化研修

事業名：NGO人材育成研修

研修期間：2012年7月～2013年3月

研修受講者：島田 めぐみ（当会理事）

研修内容：

- ① 研修テーマ「女性のマイクロファイナンスグループの組織運営改善をめざした当会および現地協力団体のキャパシティビルディング」
- ② プログラム：7月・・・国内での国際協力運営管理についての座学やケーススタディをおこなう。
11月～3月・・・インドでの現地NGOでの研修、現地NGO職員を対象にしてアンドラプラディ州にある日本のNGOの開発事業の運営手法、成果について3日間で学んでいった。
さらに研修の成果をもとに現地NGOの活動に反映させるための方策が検討されていった。
- ③ 研修成果：現地NGOから2名の職員が参加しておこなわれた研修では団体の問題分析をおこないSHGの運営について改善策など具体的な活動を導きだすことができたことは大きな成果となった。また、当会と協力してすすめていくSHGの果たす役割について再確認する機会ともなった。

4. 海外交流事業の充実

海外交流事業では6ツアーを実施し合計43名が参加した。LIFEの事業地訪問では、現地関係者や住民との相互理解や信頼関係構築が達成できただけでなく、日本からの参加者にLIFE事業への理解と関心を深めてもらう機会となった。また第2回「インド植林ワークキャンプ」と4回、5回「インドBOPビジネスの現場を訪ねるツアー」を実施していった。実施するにあたっては多くの関係機関・団体の協力が得られたが、同時にネットワークをつくっていく機会ともなった。ツアーや研修会から帰国したあとは参加者による報告書や文集の発行および報告会の開催により、経験や学びを共有する機会を持った。国際協力の分野で就職を目指し、またキャリアアップを図っていくにはどのようにすればよいかという情報提

供の機会となった。また、帰国後にインターンやボランティアとして継続的に LIFE の活動に継続して関わる参加者も増加した。

スタディツアー実施する NGO 担当者を対象にした危機管理研修も定期的に開催され不慮の事故などに備えて経験値の共有や情報交換をおこない質の向上を図っていった。

スタディ&ボランティア体験ツアーの開催

LIFE 事業視察、現地 NGO やその他開発機関の事業視察、生活体験、文化交流、教育・医療機関など各種施設訪問などをおこなった。

第 26 回インド・スタディ&ボランティア体験ツアー

研修地：タミルナドゥ州ビルプラム県ジンジー

日程：2012 年 8 月 20 日～9 月 5 日、12 日

参加者：7 名

協力団体：CECOWOR

第 27 回インド・スタディ&ボランティア体験ツアー

研修地：タミルナドゥ州ビルプラム県ジンジー

日程：2013 年 2 月 18 日～3 月 6 日、13 日

協力団体：CECOWOR

<中止>

+

インド農村開発研修の開催

農村地域において、PRA（主体的参加型農村調査法）やフィールド（現場）への視察を行い、地域社会の課題や住民の取り組みについて直接住民から意見を聞き、開発の理論と現状について学んだ。NGO や政府機関も訪れ、参加型開発をすすめるにあたり、求められる態度や資質について幅広いテーマで開発ワーカーからの研修を受けた。

第 19 回インド参加型農村開発研修

研修地：タミルナドゥ州ダルマプリ

日程：2012 年 8 月 19 日～9 月 5 日、12 日

参加者：11 名

協力団体：MYRADA ダルマプリ研修センター

第 20 回インド参加型農村開発研修

研修地：タミルナドゥ州ダルマプリ

日程：2013 年 2 月 17 日～3 月 6 日、13 日

参加者：7 名

協力団体：MYRADA ダルマプリ研修センター

インド・BOP ビジネスの可能性を探るツアー

貧困層を対象にしたビジネスを途上国でおこなう企業が増え、関心が高まっているなかでインドでおこなわれているビジネスの現場を視察し、可能性をさぐっていく趣旨でツアーを開催した。これまでインドでおこなわれてきたスタディツアー訪問 NGO、SHG、大学機関をはじめ、現地 NGO から紹介された医療機関、金融機関などを訪問して学んでいった。BOP ビジネスが注目されるなかで関心をもつ人も多く、参加者も第 4 回は 12 名となった。

第4回インド・BOP ビジネスの現場を訪ねるツアー

研修地：タミルナドゥ州ディンディグル県、チェンナイ市、マドゥライ市

日 程：2012年8月27日～9月1日

参加者：12名

視察団体：Equitas ,REYDS ,Gandhigram Univ., Gandhigram Trust,SALT
REYDS,Aravind Eye Care System

第5回インド・BOP ビジネスの現場を訪ねるツアー

研修地：タミルナドゥ州ディンディグル県、チェンナイ市、マドゥライ市

日 程：2013年2月3日～9日

参加者：4名視察団体：Equitas , ,Gandhigram Univ., Gandhigram Trust,SALT、 ,Aravind Eye Care System

写真下：BOP研修でエネルギーセンターのソーラー
クッカーを見学



写真上：BOP研修で地場産業のピクルス（インドの
漬物）づくりを見学

第2回インド・植林ワークキャンプ

研修地：タミルナドゥ州ディンディグル県

ニラコタイ地区

日 程：2012年9月2日～9月9日

参加者：2名

協力団体：CIRHEP

プログラム：6か村の村にて村民と一緒に植林をおこなう。その他、有機肥料づくり、SHG 活動見学、環境教育プログラム見学をしていった。

第1回スタディツアー報告会&旅博覧会

開催日：2012年6月30日（土）

会場：日本大学法学部三崎町校舎

参加者：80名

第2回スタディツアー報告会

開催日：2012年12月1日（土）

会場：日本大学法学部三崎町校舎

参加者：20名

B. 国内事業

1. 企業、公共団体との連携活動

物品回収運動

2004年に始まった企業との連携活動の中でも資金づくりに大きく貢献してきた物品寄付の運動は2012年度も継続しておこなわれた。CSR活動が盛んになる昨今、多くの企業や各種団体の参加協力があった。

協力先例：

ネット掲載許可をしていないため非公開

商品売上寄付

製品の売り上げの一部を寄付するという企業のプログラムにも参加している。こうした商品の紹介はLIFEウェブサイトほかウェブログ、メールマガジン、会報等で紹介し、会員や関係者にも周知を行ってきた。

・カリッジ・マーケット

インドネシア直輸入の家具や雑貨を扱っている会社がLIFEの植林に関心をもち商品が1個売れるごとに100円が寄付される。2008年5月から始められている。LIFEではこのような寄付制度を拡大していくためにCRM（コース・リレーティッド・マーケティングといわれ寄付付商品を購入することによって社会貢献をし

ていくという仕組み）について昨年度から継続して運営委員、職員を対象にして研修会を開催した。現在は企業との連携を図るためにLIFEのメッセージをどのように伝えるかについて運営委員会で検討を重ねている。これは広報面でも分かりやすいアピールによって支援者拡大につなげていく意図がある。

2. 国際理解教育活動

中・高生のための国際理解教室

夏休み体験ボランティア in ちよだ 2012 夏

日 時：2012 年 7 月 31 日(火) 13:00～16:00

会 場：ちよだボランティアセンター

参加者：中高生 16 名、インターン 3 名、スタッフ 1 名

プログラム：身近にある差別や偏見について考えを

ゲームを通して学んでいく。LIFE の国際協力

活動紹介や物品収集活動のひとつとなっている

使用済み切手の整理をおこなっていった。

3. 啓発活動

講師派遣等：5 回

1. 「海外フィールドワークからの学び」講師派遣：米山

開催日：2012 年 5 月 14 日（月）

会 場：拓殖大学

2. 「インドでの国際協力の仕事と LIFE」講師派遣：米山

開催日：2012 年 6 月 13 日（水）

会 場：東洋大学

3. 「BOP ビジネスの展望」講師派遣：米山

開催日：2012 年 7 月 3 日（火）

会 場：佐賀大学

4. 「国際協力活動へのすすめ」講師派遣：米山

開催日：2012 年 7 月 4 日（水）

会 場：長崎外国語大学

5 「スタディツアーの危機管理」派遣講師：米山

開催日：2012 年 7 月 9 日（月）

対 象：ツアー運営企画教員と大学生

会 場：広島市立大学

イベント参加と出展

2012 年もアースデイ、グローバルフェスタに参加した。これは国際協力・交流、市民活動、環境問題をテーマとしたイベントで、LIFE は例年活動紹介やパネル展示、民芸品販売などを行っている。企画・準備、当日の運営はイベント担当インターンが担い、延べ 40 名のボランティアが参加した。

・アースデイ東京 2012

開催日：2012年4月21(土)～4月22(日)

会場：代々木公園

主催：アースデイ東京2012実行委員会

・グローバルフェスタ JAPAN2012

開催日：2012年10月6日(土)～10月7日(日)

会場：日比谷公園

主催：特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC)、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、外務省



・ふれあい満点市場 ボランティアフォーラム

開催日：2013年2月9日(土)

会場：飯田橋ラムラ1階広場

主催：東京ボランティア・市民活動センター (TVAC)

写真上：資金調達のすすめ方について学ぶ研修会、日本ファンドレイジング協会から講師を招いて2012年1月～2月2回開催された。その後、継続的に広報の基本計画について検討していった。

フェアトレードチームの活動

2009年度に発足したLIFEフェアトレードボランティアチームはLIFEでの活動にフェアトレードの可能性をさぐり、他の団体とも協力し、研究活動を重ねてきた。このグループはボランティアが主体となってフェアトレードの定義から異議、フェアトレード商品を扱う企業との連携などを月に1度土曜日のミーティングとメールリストを通じて行った。また、有機栽培の紅茶を仕入れて販売することができた。また作業所でつくられたクッキーやチョコレートも加え4月に開催されたアースデイ東京2012、10月のグローバルフェスタ、12月のお歳暮ギフト用で販売していった。多くの方々の協力もあって今年度の売り上げは24万円となった。

4. ネットワーキング

*NGOスタディツアー研究会：

ホームページの運営、

スタディツアーNGO合同説明会：2012年6月30日(20団体が参加、協力：日本大学法学部佐渡友ゼミ)

担当者危機管理、運営研修会：2013年1月22日

*NGOと企業の連携推進ネットワーク

34のNGO,19の企業が参加して連携活動をどのようにすすめていくか、というメインテーマで活動をしている連携推進ネットワークに加盟し連携事例からの学んでいく隔月の定例会に参加していった。

*「動く⇒動かす」キャンペーンへの参加

2015年までに達成のMDGs目標に向けて活動をしている「STAND UP」キャンペーンに参加していった。10月10日白大学久保田講師のクラスにて世界のマイノリティについて考えるプレゼンテーションをおこなっていった。

5. インターンの受入れ

2012年度は延べ7名のインターンを受入れた

中川 裕太 (2010年4月～2012年5月) イベント
城戸 敦子 (2011年7月～2012年7月) イベント、海外協力
宮崎 美樹 (2011年2月～2012年7月) フェアトレード、イベント
多田 有理沙 (2012年4月～2012年10月) イベント
古川 朋佳 (2012年5月～2012年12月) イベント、広報
近藤 克基 (2012年5月～2012年10月) イベント
陳 詠儀 (2012年8月～2012年10月) 海外協力、イベント



写真上：グローバルフェスタでインドの活動紹介

写真上：20のNGOが参加したツアー合同説明会

6. 訪問学習受入



中学校の修学旅行研修で関東圏にあるNGOを訪問してその団体の活動について学ぶプログラムがあり、今年度も2校からのグループ訪問があった。

岐阜県大垣市立南中学校：2012年6月21日<6名>

愛知県犬山市犬山中学校：2012年6月28日<8名>

7. 職場体験研修生受入

若者を対象にして就職活動の一貫としてNPO,NGOで職場体験をしていくプログラムで、東京しごとセンターからの委託事業として4名を受入れ、4日間の職場体験研修をおこな

っていった。

- ・2012年6月18日～21日：2名
- ・2012年12月3日～6日：2名

C. 会員事業

1. 会員の拡充

会員数（2013年3月31日現在）

正会員（個人）：49名

正会員（団体）：4団体

賛助会員：105名

2. 会員活動の強化

「切手仕分け隊」の活動

企業や学校、個人から寄贈された使用済み切手の整理・販売を担う「切手仕分け隊」ボランティアの活動には2012年度も多くの参加があった。企業の社会的責任（CSR）に関心が高まる中、CSR活動として参加する企業も増え、LIFE事務所または企業内のオフィスにて切手仕分け体験も開催した。また、気軽にできる切手仕分けとして自宅でやっていただけるような協力者も増えてきている。今年度の登録者数は25名となっている。

D. 組織強化

1. 体制づくり

2012年度会員総会

日時：2012年5月26日（土）14：00～16：00

会場：千代田区九段上集会室

内容：

第1部「2011年度事業報告ならびに2012年度事業計画」

第2部 講話

「インド・マイクロファイナンスの課題と国際
協力の展望」

スピーカー：島田 めぐみ（理事）

理事会・運営委員会：2回

開催日：9月15日、3月25日

内容：海外事業、国内事業進捗、資金調達、助成事業、関係

2. 資金調達

夏季ひまわり募金、年末・クリスマス募金キャンペーン

夏季ひまわり募金ではインターンの交通費補助や各種研修会参加費補助への支援を、また年末・クリスマス募金のキャン

ペーンを行い、LIFE の活動への支援を呼びかけた。

「夏季ひまわり募金」キャンペーン
開催時期 2012 年 6 月下旬～2012 年 8 月末
案内状発送数：約 800 通
募金金額：138,000 円

「LIFE クリスマス・年末募金～あなたの協力で
来年も一歩前進」キャンペーン
開催時期 2012 年 11 月下旬～2013 年 3 月末
案内状発送数：約 2,500 通
募金金額：1,033,511 円

ファンドレイジング研修

環境・持続社会研究センターが主催して NGO、NPO の「マネジメント力」「資金調達力」レベルアップ研修が開催され
職員の米山が受講した。期間は 2012 年 12 月 16 日、2013 年 1 月 14 日、1 月 20 日、1 月 27 日
また、日本ファンドレイジング大会が 2013 年 3 月 9 日～10 日開催され鷺見運営委員が参加、多くの団体の成功例や
資金調達のノウハウについて研修していった。

インターネットによるオンライン募金の充実

インターネットからカード決済やインターネットバンク決済で寄付を募金サイトでは今年度も引き続き成果をあげている。

- ・ GiveOne（運営：特定非営利活動法人パブリックリソースセンター）
- ・ NGO アリーナ（運営：特定非営利活動法人環境アリーナ研究機構）
- ・ NGO サポート募金（運営：特定非営利活動法人国際協力 NGO センター）
- ・ イーココロ！（運営：ユナイテッドピープル株式会社）
- ・ チャリティ・ナビ（運営：特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム）

3. 広報

会報「みらいの樹」発行

みらいの樹 56 号

発行：2012 年 7 月

発行部数：1,200 部印刷、約 750 部発送（会員・寄付者・企業・国際協力団体・関係者等）

内容：特集「貧困問題の救世主～マイクロファイナンス、その抱える深刻な問題」

みらいの樹 57 号

発行：2012年9月

発行部数：1,200部印刷、約750部発送（会員・寄付者・企業・国際協力団体・関係者等）

内容：特集「住民が主役の農村開発～そのカギはBOPビジネスとSHG」

みらいの樹58号

発行：2012年12月

発行部数：1,000部印刷、約750部発送（会員・寄付者・企業・国際協力団体・関係者等）

内容：特集「フェアトレードチーム活動報告」

みらいの樹59号

発行：2013年3月

発行部数：1,000部印刷、約750部発送（会員・寄付者・企業・国際協力団体・関係者等）

内容：特集「教育ローン提供プロジェクトの新たな試み」

ウェブサイトによる情報発信

LIFEウェブサイトのコンテンツ充実・そして外部ウェブ掲示板等の掲載には力を入れてきた。スタディツアーやボランティア参加者はインターネットでLIFEの活動について知ることが多いため、情報発信の重要なツールと位置づけている。フェイスブックやツイッターなどによる利用が盛んになり、LIFEの活動広報も活用していった。

掲載ウェブサイト（一部）

- ・PARTNER - 国際協力キャリア総合情報サイト（運営：独立行政法人国際協力機構国際協力人材センター）
- ・Yahoo!ボランティア（運営：Yahoo! JAPAN）
- ・ボランティアホリデー（運営：株式会社富士通総研）
- ・ボラ市民ウェブ（運営：東京ボランティア・市民活動センター）
- ・NGOダイレクトリー（運営：特定非営利活動法人国際協力NGOセンター）
- ・社会貢献ポータル JAPANWAY NAVI（運営：特定非営利活動法人ジャパンウェイ）
- ・日本財団公益コミュニティサイト CANPAN（運営：日本財団 CANPAN 運営事務局）
- ・チャリティナビ（運営：特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム）
- ・国際協力情報掲示板（運営：市民国際プラザ）

メールマガジンによる情報発信

月1回発行でメールマガジン「LIFE通信～水・緑・人で国際協力～」を発行し、最新のイベントや募集情報、スタッフのコラムなどを掲載している。編集作業にはスタッフおよびインターンが携わり、定期的に配信していった。

広報用資料・出版物の作成

1. 第25回インド・スタディツアー報告書<2012年6月>
2. 第26回インド・スタディツアー報告書<2012年12月>
3. 第19回インド・参加型農村開発研修報告書<2012年11月>
4. 第3回インドBOPビジネスの現場を訪ねるツアー報告書<2012年7月>

2013 年度事業計画（案）

2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

「水・緑・人」で国際協力という事業理念を継承し、持続可能な発展と、自立発展を促す働きを国内外ですすめていく。海外での事業ではとくにこれまでの経験値を生かした農業復興をめざした基盤整備、有機農業の普及、緑化事業に力を注いでいく。インドでは緑化、有機農業、人材育成面で支援をおこなっていく。また、インドネシアでの新規事業のためのニーズ調査を踏まえて開発支援事業の準備をしていく。

国内事業では、LIFE のミッションを実現していくための協力者の拡大を図っていく。そのために広報の見直しや活動計画をたててすすめていく。とくに企業の社会貢献活動にも協力していく。またインターン、ボランティアへの参画を継続的に促進し、人材育成の観点からも研修の機会を設けていく。企業・学校・自治体・NGO との連携活動を更に推進し、開発教育推進、海外スタディツアー、国際協力・開発をテーマとした講座等、学習活動を広く公開し、展開していく。

組織基盤の確立では、事業評価をすすめながら財務面の改善、人材育成の観点から研修の機会をもつ。自主財源づくりの面では方策・戦略を立て、取り組んでいく。また、広報の効率化を図るための環境整備、技能向上を図っていく。

A. 海外事業

1. 支援活動の充実

インド・タミルナドゥ州ディンディグル県オダンチャトラム地区

事業名：デバトール流水域開発と女性の自立支援事業

事業計画：2013 年 4 月～2014 年 3 月、（1 か年事業）

助成機関：国際ボランティア貯金助成（旧郵政公社）

現地協力団体：CIRHEP(Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection)

南インド、タミルナドゥ州ニラコタイにある現地 NGO・CIRHEP（シロップ）と協力し、同州の降水量の不足によって土壌が劣化してきているデバトール村、コタヤム村 2 か村での流水域開発、女性の SHG（自助努力グループ）および農民の組織化を図り、農業復興が可能となる環境の整備と生活環境改善を図っていく。

1. 植林、育苗をすすめるとともに有機肥料づくりと普及活動、農業生産の促進
2. 流水域施設を設置し、水資源確保をし、農業基盤の整備
3. 女性を対象として各種研修の開催による能力強化の基盤整備
4. 現地協力団体職員の事業運営能力強化

インド・タミルナドゥ州カンピリアンパティ地区

事業名：女性グループ SHG メンバーによる縫製技術研修による経済的自立支援

事業期間：2013 年 4 月～2014 年 3 月（継続 2 年目）

助成機関：アジア生協協力基金

現地協力団体：REYDS(Rural Education and Youth Development Service)Trust

2010年からすすめられてきた支援活動を継続させていく。ミシンによる縫製技能研修受講者の増加を図るとともに縫製技能を上げて販売が可能になるようにすすめていく。

1. SHG 管理運営が円滑にすすむような研修の開催
2. 工業用ミシンの導入により縫製技能のレベル向上
3. 縫製された製品の販路の開拓や組合制度の方策づくり

インド・ヴィルプラム州ジンジー地区

事業名：女性グループ SHG メンバーによる栄養改善プログラム支援

事業期間：2013年7月～2014年6月（1か年事業）

現地協力団体：CECOWOR(Centre for Coordination of Voluntary Works and Research)

これまでスタディツアー、ボランティア活動の受入 NGO となっていた CECOWOR がすすめている女性グループの活動支援をすすめていく。農村部貧困層を対象にして SHG を組織して自立に向けた活動をおこなっているが、とくに栄養改善は女性にとって急務な課題となっている。現地にある素材を活用して栄養改善を図っていく。

1. 栄養改善のための女性グループを対象にした研修の開催
2. 地域にある資源、素材採取から加工までの技術研修
3. 栄養改善食品の生産と販路開拓

インド・タミルナドゥ州ディンディグル県ガンディグラム

事業名：農村部に住む障がい者のための SHG 活動支援

事業期間：2013年4月～2014年3月（継続2年目）

助成機関：連合「愛のカンパ」

現地協力団体：ガンディグラム大学農村開発部

2012年9月から開始された支援事業は15か村に住む120名の身体、メンタルな障がいをもった人たちが公的なサービスを受けられ、雇用の機会が得られるような制度をつくっていくことを目的にして活動が開始された。各村にひとつずつ SHG を組織し定期的な会議をもち、メンバーからの要望や悩みを聞いて解決を図っていく。

1. 定期的に SHG の会議を開き、メンバーの要望、悩み事を聞いて、関係機関に改善策を提出
2. 公的なサービスに関する情報を収集し、SHG メンバーに告知
3. メンバーの雇用を創出していくために産業界への働きかけ

インド・タミルナドゥ州ディンディグル県ニラコタイ地区

事業名：教育ローン制度の導入による SHG 運営支援

事業期間：2013年4月～2014年3月（継続2年目）

現地協力団体：CIRHEP(Centre for Improved Rural Health and Environmental Protection)

農村部に住む青年が高等教育機関へ進学を希望する人が増えてきている。しかし、インドでは銀行から教育ローンを貸し出す制度が普及していなく、入学金などまとまった金額が必要な場合は高利貸から借金をして対応する状況となっている。このような家計を圧迫する状況を解決するために女性が SHG という組織をつくり教育ローン制度を導入し、管理

運営にあたっていく。

1. SHG が教育ローン制度を管理運営していくための技能研修の実施
2. 会計処理、帳簿記載など円滑に業務ができる専従職員の採用
3. 他地域での教育ローン制度の成功例を学ぶ視察研修の開催

2 日本企業のインドでの調査活動への協力やアドバイス

最近日本の企業が途上国でソーシャルビジネスを展開していくことに関心をもち、インドで活動している当会へも問合せや相談がきている。これまでの農村開発の経験値を生かしてアドバイスをおこなってきている。今後は現地への調査協力依頼などが予想される。日常業務との兼ね合いで調整していくことになるが、対応や関わり方についてのルールを明確にしてすすめていく。

2. 海外交流事業の充実

スタディツアー研究会、NGO と連携している旅行会社と協力して広報、プログラム向上をめざした活動をしていく。スタディツアー企画運営面での危機管理研修の地方開催、大学のボランティア・センターや企業の CSR 推進室等の協力を得てツアーの案内をしていく。

スタディツアーの開催

第 27 回インド・スタディ：2013 年 8 月 19 日～9 月 1 日、定員 20 名

第 28 回インド・スタディ：2014 年春（予定）定員 20 名

参加型農村開発研修の開催

第 21 回インド参加型農村開発研修：2013 年 8 月 19 日～9 月 1 日、定員 20 名

第 22 回インド参加型農村開発研修：2014 年春（予定）定員 20 名

BOP ビジネスの現場を訪ねるツアーの開催

第 6 回 南インド BOP ビジネスツアー：2013 年 8 月 26 日～8 月 31 日 定員 12 名

第 7 回 北インド BOP ビジネスツアー：2013 年 9 月 1 日～7 日 定員 12 名

第 8 回 南インド BOP ビジネスツアー：2014 年春（予定）

第 9 回 北インド BOP ビジネスツアー：2014 年春（予定）

多様なニーズに応えるツアーの企画・実施

途上国の貧困層を対象にした BOP (Base of Pyramid) ビジネスが注目されている。海外の NGO では積極的に取り組み成果をあげているが、日本の企業や大学生も関心をもっている。現場の事情を視察し、ビジネスの可能性を探っていくツアーをインド、タミルナドゥ州や北インドにある機関・団体、NGO と協力によって実施していく。

B. 国内事業

1. 支援者拡大

企業、大学との連携活動

企業のすすめる社会貢献活動に対して、また大学での国際協力分野での人材育成面から LIFE として支援できるプログラムを提案していく。具体的には「国内でできる国際協力」「国際理解教育」「地域社会でのボランティア活動」をテーマとした出前講座を開催し、国内外で活動できるボランティアやインターンの養成をすすめていく。

また、これまで行ってきた切手収集活動のシステム化を図り、協力者に LIFE の活動紹介、参加を促すプログラムの提供、国際協力への啓発活動を推進していく。

JANIC が主管している「NGO と企業の連携推進ネットワーク」を活用して研修会での成果を活動に生かしたり、企業との連携活動をすすめていく。

1. ソーシャル・ビジネスの分野でインドでの活動の経験値の共有
2. 企業の社会貢献活動へ国際協力プログラムの提案、提供
3. 大学での国際協力分野での現場紹介と資質向上を図っての経験値の共有

2. 啓発活動の充実

学習会・講座の企画、開催

国際協力、農村開発、開発教育、フェアトレードなどをテーマとし、広く市民や大学生を対象とした連続講座・学習会・ワークショップ・フィールド調査プログラムなどを実施していく。また、スタディツアーの事前研修会にも同様のプログラムを組み入れていく。特に、「国際協力に関わりたい人のためのキャリアアップ・セミナー」を開催していく。

1. 海外ツアー、研修会で開発教育プログラムを組み入れと事後研修会の開催
2. 海外ツアー報告会の開催と併せて国際協力セミナーを各地の大学などで開催
3. フェアトレードの学習会、開発教育ワークショップの開催

3. ネットワーキング

ボランティア・センターとのネットワーキングの活用

これまで構築されてきたネットワークでの研修成果を共有し、LIFE の組織運営能力を高めていくために応用していく。事務所近隣にある千代田区ボランティア・センターや大学のボランティア・センターとのネットワーキングによって地域社会で貢献できるプログラムをすすめていく。

1. LIFE の事業成果、事例報告による経験値の共有
2. ちよだボランティア・センターの協力を得て区内の学校、企業との連携プログラムを実施
3. 大学に併設されているボランティア・センターと連携して国内でできる国際協力の推進

スタディツアー研究会との協働

海外でのスタディツアー運営にあたって担当者の技能向上、危機管理のための研修を実施していく。また、NGO 間での情報交換や経験値の共有をはかり NGO としてのスタディツアーの意義を明確にし、人材育成の視点から研究会の活動を充実させていく。2013 年度からは当会が事務局を担うことになり、合同説明会や研修企画運営をすすめていく。

1. 広報面で多くの関心をもつ人々へのプログラムの提供
2. NGO のスタディツアー担当者の運営管理技能、危機・安全管理の向上をめざした研修の開催
3. 大学、NGO、旅行会社と連携をはかりツアーの地位向上をめざした活動の推進
(ここでの旅行会社は NGO の活動を理解し、協力関係をもつ旅行会社を指す)

C. 会員事業

1. 会員獲得

会員獲得目標：

正会員・個人 50 名、正会員・団体 5 団体、賛助会員 120 名

会員獲得目標達成に向け、特に在籍会員の継続率を高めるために会費の自動引き落とし制度の普及、促進を継続的に図っていく。また、会員に対する継続促進プログラムを企画・実施していく。

1. 旧会員の掘り起こしと勧誘の広報活動の実施
2. 継続率を高めるために共感を得る依頼、お願い状の送付
3. 寄付協力者を会員に勧誘していく方策の検討と遂行

2. 会員活動の強化

会員活動の魅力をアピールし、LIFE の特色を出したプログラムづくりをすすめていく。事務局支援グループ、会員交流活動、イベント活動などの活性化を図るためにインターンやボランティアの参加を促進していく。アースデー、グローバルフェスタ、桜花見、花火観賞納涼会など会員が集まる機会をもち交流をすすめていく。また、会員が気軽に集い、楽しんで参加できるプログラムの企画運営をすすめていく。

1. 大学生を中心としたユースチームを結成し、会員活動活性化プログラムの推進
2. インターン、ボランティアによる企画、運営による学習活動の推進

D. 組織強化

組織整備

年次総会の開催

2012 年度事業報告、2013 年度事業計画について協議、役員の変更をおこなっていく。また、第 2 部では NPO、NGO の経営的アプローチが求められるなかで NGO の使命について共に考えていく機会とする。

日時：2013年5月25日（土） 14：00～16：00

会場：千代田区九段上集会室

内容：第1部「2012年度事業報告ならびに2013年度事業計画案審議」 役員改選

第2部 講話とワークショップ

テーマ「NGOのマネージメント力の課題と展望」

ファシリテーター：中山 雅之氏（国士舘大学21世紀アジア学部准教授）

各種委員会の充実

理事会・運営委員会の充実を図るため情報共有と意見交換、より迅速な意思決定を図り、計画遂行にあたっていく。

認定NPO法人取得

個人や団体が寄付をした場合寄付金控除を受けることができる。また相続人が認定NPO法人に寄付をした場合、寄付をした相続財産が非課税になったりする。情報公開が強化されたり、社会的信頼性が向上して助成金や補助金を獲得しやすくなるといわれている。関係機関、団体の相談や指導を受けて申請をしていく。

3. 資金調達

1. 会員継続の向上、新規会員獲得のための戦略、プログラムをつくり実行していく。
2. オンライン募金（インターネットからの申込）を促進と募金者のフォローアップをしていく。
3. ファンドレイジングの手法の開拓をし、先駆的なモデルケースをつくっていく。
4. 会費自動引き落としの利用を促進していく
5. LIFE ウェブサイト上でのクレジット決済導入の検討、その他ツイッター募金など新しいファンドレイジング手法の研究・実践
6. クリスマス・年末募金キャンペーン実施していく。また、夏季ひまわり募金では昨年開始されたインドでの教育ローン制度の管理運営にあたる担当者経費にあてることを目的にしてキャンペーンをおこなう。

4. 広報

広報活動の効率化の促進：ホームページによる広報

活動の充実を図るとともに、資料請求者に対するフォローアップを促進していく。また、広報活動の効果や効率性についての評価をしていく。また、よりわかりやすく伝えるための言葉や内容、表現の仕方などを工夫していく。

通信機器、情報発・受信機器環境の整備

1. 会員の情報管理、金融機関からの自動引き落とし業務にともなう情報処理の危機管理など、機器類の整備と情報の取扱いに関するルールを策定、施行していく。
2. 通信機器利用にともなう効率化の面からの検討と機器の整備をすすめていく。
3. ホームページのリニューアルを図っていく。
4. PCによる広報メディアの機能面の充実を図っていく。